

【優秀賞】

「大切な故郷」^{ふるさと}

札幌市立厚別北中学校

1年 相馬 涼花

私の叔母は、仕事の関係で2016年にビザなし訪問に参加し、択捉島に行ったことがあります。その話を聞き、私はもともと北方領土に興味を持っていました。叔母からその時の話を聞くと、島へ向かっていた船から択捉島が見えたたん、それまでずっと車いすに座っていた元島民の方が立ち上がり、窓にかけ寄って目を輝かせたそうです。その時元島民の方はどんな想いで島を見ていたのでしょうか。

北方領土は北海道の東に位置する日本固有の領土です。しかし、第二次世界大戦末期の1945年8月25日から9月5日までの間にロシア（旧ソ連）に占領され、ロシアは第二次世界大戦の結果、北方四島はロシアの領土になったと主張しています。

今までに日本政府は、北方領土について長い間ロシアと交渉を続けてきました。交渉の歴史を見ていくと、1991年の旧ソ連崩壊後、ロシアは経済危機や政治の混迷が続き、日本が有利な立場にいたときもあったし、問題解決に近づいたときもあったように思えます。しかし、結果的に何も進展はなく、見通しも立っていません。元島民は、島へ自由に行き来ができないまま、何度も期待を持たされ、何度も失望したのです。

元島民の平均年齢は、2019年3月末で84歳を超え、返還要求運動は二世・三世に引き継がれています。北方領土が占領されてすでに75年が過ぎていて、この問題は簡単に解決することはできないのだと思います。

叔母が訪問した択捉島は、すでに日本の建物がほとんどなくなっていて、ロシアが空港や道路を整備していたそうです。そうして、今住んでいるロシアの人達にとっても、北方領土は故郷となってきています。

この問題を解決するには、日本政府がロシアと、粘り強く話し合いを続けていくことが必要だと思います。

私達は、元島民に故郷の北方領土が一刻も早く戻ってくるように、何ができるのでしょうか。私は、まずは一人一人が北方領土問題を理解し、返還要求運動に参加してみることが大切だと思います。

元島民にとって大切な故郷が、一刻も早く戻ってきますように・・・。